

2004年5月号  
編集 銀河の里広報委員会  
代表 清水康宏  
発行 銀河の里  
〒025-0013  
岩手県花巻市幸田4-116-1  
TEL (0198)32-1788  
FAX (0198)32-1757

いよいよ田植えが始まりました。今年も天候に恵まれて、苗は順調に生育し、立派な苗になりました。「苗半作」などと言われるほど、米作りにとって苗は重要で、いい苗は、豊作につながるとされています。昨年は夏の天気が悪く、不作でしたが、今年のこれからの天候が気になるところです。

ワークステージに取っては初めての田植えですが、なんとと言っても20代の若者中心の集団だけあって、ハウスからの苗出しの作業も、田んぼへの苗運びも、あっという間に終わってしまいます。

田植え機の操作などは、練習程度にとどまったものの、やる気十分のメンバーで、この先が楽しみです。押され気味の高齢者も、そこは経験と技術で貫禄を見せ、ゆとりと、やる気のコンビネーションが、何ともいい感じで組み合わせっていました。

ワークステージの開設と同時に農繁期という、慌ただしい春ですが、種まきから、収穫までの米作りの全行程をスタッフと彼らがどうこなし、どう感じていくのか、そして、どう育って行くのか、楽しみに見守って行きたいと思います。



苗運び



種まき



リレーで苗運び



苗箱を二つもって奮闘中



荷台でヨイヨイ



豆定植



山菜採り



耕耘機を使う



デイサービスで



知事も入って記念撮影



ランチ弁当



里周辺の道ばたで



山菜を分ける



花見にて104歳と20代スタッフ



デイのひととき



竹林で竹切り

銀河の里の噂を伝え聞いたとのことなのか、県知事の訪問がありました。弱小の組織で運営する、始まったばかりの歴史もない施設ではあるものの、方向性をもって、未来に向かって歩いている、福祉の世界では今時、他では見あたらないうと自負を持っています。そういう意味ではもっと注目されてもいいのではと思うのですが、ほとんど相手にされないどころか、無視されているくらいなので、独自の道を、孤独に歩もうと腹をくくったところでの、突然の訪問は意外でした。

施設長などは知事に先立って訪問のあった保健福祉部長に「何の目的でこられるのですか」などとげげんそうに聞いてしまう始末です。部長がキャリアで中央官庁からの派遣と分かるのと、「岩手に赴任される事の使命はどこに感じておられますか」などと、いきなり、里流の「あなたの生き方」論になってしまいます。組織の体制ではなく、一人一人の生き方こそが大切なのだという里のスタンスは伝わったのでしょうか。

視察、見学の方には、必ず里のレストランをご利用いただいて、収益結びつけていくの方針通り、知事ご一行にも昼食ランチを食べていただきました。

ワークステージの若者はそれぞれに質問したり、写メールをお願いしたり、有名人の訪問と言うことでお祭り騒ぎとなりました。



今月の短歌・俳句

食後の昼寝すんごく気持ちいい  
自然と皆の集まった午後  
渡辺

ある日おにぎり持って公園へ、食事後誰かが寝始めるとつられてみんな。鳥の声、風の音水の音に包まれて過ごしたい時間

お花見の花より団子おいしかった  
渡部  
お花見の日程をたてていたのはいいけれど、当日はあいにくの雨。仕方なく車の中で団子を食べる。やはり団子はおいしい。

空見あげ飛行機雲を眺めてた  
渡辺  
心映るあなたと私  
一呼吸おきたいとき空を見上げる。飛行機雲があつたりすると嬉しくなる。雲が消えるまで眺めていたくなる。空に私は私を映しているのかも知れない。あなたの空には何が映っているのだろう。

挑戦の春の旅立ち苦戦中  
揺らぐ心に支えの出会い

香心旅  
いつもの通りぶっつけ本番、なにがなにやら手探りの日々。まいつつてしまいそうになるが、利用者が来てくれたことで、やるべきことが明確になったりする。スタッフの連携がうまく行かず、感覚などの違いにとまどっている時期、利用者の存在は大きい支えになった。



春が一気に花咲いて、田んぼや畑が大忙し。土手には山菜がたくさんあって、みんなで取って来ました。  
枝豆も種から植えて苗を育て植えました。今年は2年目のイチゴですが、収穫はできるかな。去年の大豆を使って、ワークショップでは試しに豆腐をつくってみました。早く販売ができる所まで持って行きたいと思っています。  
青じそを使ったソシヨップは好評で、注文販売しています。それぞれが、それぞれの現場で活躍していることが里の特徴になりつつあります。いい感じの里になって行くのではないかと期待しています。



昨年秋に里の前に捨てられていた親子のネコ。親と一匹の子猫はいなくなったが、白い子猫が、里の小屋に置き去りになった。その猫はマルという名前をもらって、里で飼われる事になった。半年で立派なネコになって、里の暮らしになじんでいるようだ。  
みんなからもかわいがられ、空気を和ませる役を十分に果たしている。ワークショップの若者は犬のナナと遊び、高齢者はネコがなじんでいるような気がする。  
銀河の里4年目、授産のスタートと絡んで、これまでとは全く違う段階に入ったのだと思う。グループホーム19人、デイ10人、ワークショップ20人、スタッフ40名。ネコのマルと犬のナナ。ここで何が起ころのか、できるのか、挑戦しつつ見守りたい。

